

# 涙液量検査 (シルマーテスト: Shimer test)

目的

第1法: 反射性分泌と基礎分泌? (貯留量を含む) の和(全分泌) の測定 (眼表面に障害が生じた時に涙液を増やして上皮障害を解消する予備能力を持ち合わせているかを見る検査)  
 第1法(変法): 基礎分泌測定又は貯留量?  
 第2法: 反射性分泌?  
 鼻刺激法: 最大刺激分泌量を測定 (涙腺の予備能をみる)

上記の分泌については全てはっきりしていないので?とした。

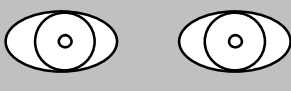
準備物 第1法 シルマー試験紙・(フルオレセイン) ・時計又はストップウォッチ  
 変法・第2法; 追加分 オキシプロカイン(ベノキシル) 第2法・鼻刺激綿棒



濡れると染色されるものや目盛があるものがあり便利。

## 第1法

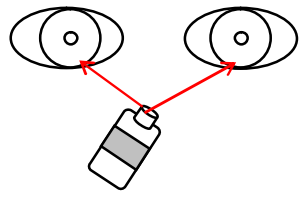
反射分泌をできるだけ少なくするため比較暗室で行なう



## 第1法変法

三叉神経刺激を最小限にするよ。

ベノキシル(フルオレセイン含有させる場合あり)を点眼する



点眼麻酔が効くまでと点眼薬が流れてしまう所要時間が約5分  
**約5分間待つ**

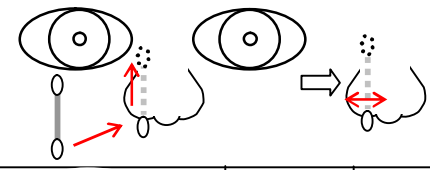
## 第2法

第2法変法、3法があったり、呼称名は色々。眼科検査ガイドに準じる。視能学とは違う。

## 鼻刺激シルマーテスト

これを第2法と言っている本が多い。

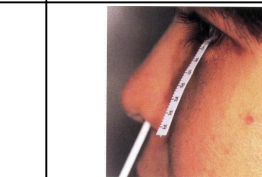
息をはかせベビー綿棒 (Johnson & Johnson が適とのこと) を涙液分泌量の少ない鼻腔内に反対側の先端のみが鼻腔から出る程度までゆっくり深く挿入し、**約10秒間**、綿棒を左右に動かし刺激する



シルマー試験紙を上方 5mm の位置で折り、被検者に軽く鼻側上方視させ下眼瞼を軽く引き下げて、両眼の下眼瞼耳側 1/3 の位置に挟み込む

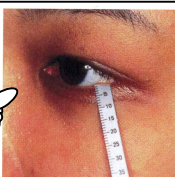
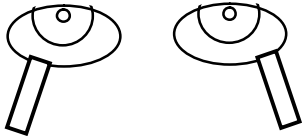
角膜を傷つけないように注意! 折り曲げた箇所が下眼瞼縁にくるように。開封せずに折れるものがあり清潔。

閉瞼する(しない場合もあり)



視能学 P210 図9

やや上方正面視させて通常に瞬目する



視能学 P210 図8

瞬目により角膜が傷つくので全ての方法で閉瞼して検査する場合があります、色々。

時計又はストップウォッチで時間を測り、5分間待つ

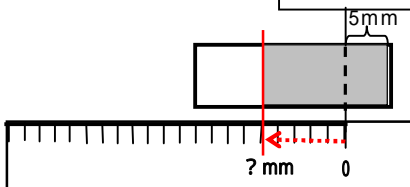
2分間待つ(第2法の場合)

5分後 5分以内に全て濡れた場合、濡れた時間を記入する。

2分後

軽く上方視させ眼瞼を軽く引き下げ、そっと試験紙を抜き取り、5mm折った位置から濡れた長さを測定する

涙液が少ないと結膜に貼りつくのでゆっくりと丁寧にはずすこと。



結果・記載例)

シルマー第1法  
 R: 2mm  
 L: 3分で全て濡れた

判定基準)

年齢が高くなるほど少なくなる

	第1法	第2法	鼻刺激
正常範囲	:10mm 以上		*10mm 以上
病的疑い	:5~10mm		
病的(異常)	:5mm 以下	15mm 以下	10mm 以下(*未満)
	(視能学・検査ガイド)	(眼科検査ガイド)	(視能学:方法の説明はなし)
	(プラクティス3)		(*はハンドブック第2.3版)

判定例)

R: 涙液減少  
 L: 正常

自分の結果を貼っておこう!

